

令和元年度 佐賀市立松梅中学校 学校評価計画にかかる学校関係者評価シート

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
ふるさと松梅を担う心身ともに調和のとれた子どもの育成	① 地域とともにある学校づくり ② 確かな学力の育成と小中一貫教育の充実 ③ 心の教育、健康・安全教育の推進と特別支援教育の充実

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

学校の評価

A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分であ

学校の評価（A/B/C）の妥当性を評価ください。

- 1 妥当である
2 ほぼ妥当である 1, 2, 3の該当する数字に○をつけてください。
3 妥当とはいえない

3 目標・評価										
① 地域とともにある学校づくり										
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	妥当性	気づき(書ける範囲で結構です。簡潔をお願いします)
学校 運営	○地域とともにある学校 づくり	家庭・地域への情報発信を行 い、説明責任をはたすことがで きたか。	・学校教育の情報を家庭・地域に発 信し、保護者へは90%、地域へは6 0%の周知をめざす。	学校HPをリアルタイムで定期的な更新を行 う。 ・学校便りを地区の掲示板や回覧等、保護 者以外にも広報を行う。	地域 連携	B	・学校だよりや学校行事など の情報定期的に更新する ことができなかった。しかし、 各学年において学級だよりを 発行し、保護者への情報発 信を行った。	・学校HPを定期的に更新するよ う複数名でチェックを行いなが ら、確実に更新ができるようにす る。	1・・・7名 2・・・3名 3・・・0名	・CS会議に出席することで情報が共有でき、 自身の役割について具体的に考える機会が できた。 ・ホームページを保護者や地域の方がどれほ ど利用されているか調べる必要があると思い ます。利用がほぼないということであれば更 新回数を減らしてよいと思います。 ・CSの取組はとても充実していたように思い ます。CSメンバーの熱意が伝わってくる毎回 の会議でした。
		コミュニティ・スクール(CS)の 充実を図ることができたか。	・保護者・CSメンバーへの80パーセ ントの周知をめざす。 ・CSメンバーを中心に、例年の行事 等を見直し、建設的な企画・運営をめ ざす。	・会議を年6回開催し、コミュニティ・スクール を実践する。 ・CS通信を会議後発行する。 ・土曜授業などを活用した、CS主催又は育 友会等との共催行事を行う。			・CS会議において、様々な学 校行事について意見交換を おこなうことができた。そこで 出た意見をもとに地域がどの ように参加していくか、具体 策を考えることが出来た。	・CS主催や育友会との共催行事 において、役割分担を明確に し、協力が得られやすいよう な環境をつくる。		
② 確かな学力の育成と小中一貫教育の充実										
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	妥当性	気づき(書ける範囲で結構です。簡潔をお願いします)
教育 活動	●学力向上	基礎学力を定着させるための取 り組みや指導法の工夫ができ たか 確かな学力を定着させるための 指導法の工夫及び研究ができ たか。	・基礎学力の確実な定着をはかり、 県学習状況調査で県平均を10ポイン ト以上上回る。 ・校内研修を充実し、授業研究会等 を、年間一人1回は必ず実施するよう 努める。 ・教師の指導力を高める研修講座や 研究会へ全員1回は参加する。	・学習状況調査結果の分析を行い、生徒の 実態に応じた指導を行う。 ・長期休業中の補充学習を実施する。 ・放課後等を利用し、個別指導の充実をはか る。 ・全員参加の授業研究会の実施など校内研 修の充実を図る。 ・研修講座や研究発表会への積極的な参加 を推奨する。 ・電子黒板やタブレットなどのICTを活用し た授業を年間通して行い、機器の効果的な 活用に向け工夫する。	学力 向上	B	・小中共通の学習過程として、「め あて」「一人学び」「協働学習」「振り 返り」を取り入れた授業づくりに取 り組んだ。 ・県学習状況調査で県平均を10ポ イント以上上回ったが、国語の話 合いの話題や方向を捉えて自分の 考えを書くことへの課題が見られ た。 ・英語では「聞くこと」で、対話形式 の問題において、ミスが目立ち、全 国正答率を下回る結果となった。 ・校内研修では、年間一人一回は 授業研究会をすることができた。	・「授業が分かる」の質問に肯定的な回 答をする生徒の割合70%以上、「平日 の家庭学習の時間」1時間半以上の生 徒の割合70%以上であったので、8 0%に伸ばしていきたい。 ・外部講師による長期休業中や放課後 の補充学習や個別指導の充実をはか ることができたので今後も継続できると 良い。 ・家庭学習として、一人一人が主体的 に取り組んでいけるように、何をどの ように学習すれば良いのかなど手立てを 工夫する必要がある。	1・・・6名 2・・・4名 3・・・0名	・「授業が分かる」から「授業をわかる」へ。
	○小中一貫教育	9年間を見通した小中一貫によ る学力向上及び体験活動の充 実ができたか。	・小中合同校内研究会を毎月1回以 上の開催し、横断的カリキュラムの構 築や縦断的カリキュラムの工夫を行 う。 ・小中乗り入れ授業及び交流授業を 充実させる。 ・児童・生徒が主体となって企画・運 営する行事を充実させ、体験活動満 足度を90%以上にする	小中合同の授業研究会を行う。 ・全員、1回は研究授業を行う。また代表者 による授業研究会を実施する。 ・小中合同の職員会議・校内研究会・生徒指 導協議会・校内支援協議会の開催する。 ・小中合同の委員会活動を精選・重点化を はかる。 ・児童・生徒が主体となって企画・運営する実 行委員会を組織し、自主的な活動を充実さ せる。	教務部 特別 活動	A	・小中合同の授業研究会につ いては、全員研究授業を行い、 また代表者による授業研究会も 実施することができた。しかし、 事前の指導案検討会に時間を かけすぎて負担になっているた め、改善が必要がある。 ・様々な学校行事において、実 行委員会を中心に児童・生徒が 自ら企画・運営することができ た。	・小中合同の授業研究会を続けて いながら、作成する指導案を略 案にしたり、時間割を工夫して検討 会の時間を確保したりするなど、他 の業務とのバランスを取りながら改 善をしていく。	1・・・9名 2・・・1名 3・・・0名	・児童生徒の主体的な活動で子どもたちが変 容・成長していく様子がよくわかりました。
③心の教育、健康・安全教育の推進と特別支援教育の充実										
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	妥当性	気づき(書ける範囲で結構です。簡潔をお願いします)
	●志を高める教育	夢や目標に向かって、努力しよ うとする気持ちの育成ができた か。	・各学期で個人目標を立てて計画的 に取り組む態度を育成する。 ・総合的な学習の時間で体験学習を行 う。 ・12年生は「先輩に学ぶ」を行い、23 年生は、高校進学説明会を行い、2 年生は職場体験学習を行う。各学 年、進路実現に向けての意識が8 0%を上回る。	情報を得、さまざまな体験活動を通して自己 の進路実現のための学習を実践する。 ・職場体験(2年生)を実施して、勤労観・職 業観を育み、将来の進路選択の見通しを立 てる。 ・総合的な学習の時間等で、外部講師を招 聘しながら、いろいろな職業やそこで必要な 能力、適性について企業体験活動を通して 学ぶ。 ・「先輩に学ぶ」(1、2年生対象)を実施し、 高校生活の実態や魅力について知り、自分 の進路決定の参考となるようにする。	キャリ ア 教育	B	・全学年、各学期で目標を立 て、教室に掲示することで、意 識して毎日を通すことができ た。 ・総合的な学習の時間では、一 年生が【バーンモンアイズ】、二 年生が【柿ようかん】に取り組 んだ。 ・進路実現に向けての意識が8 0%を上回らなかった。色々な 場面で将来のことは考えるもの く、自分に置き換えて考えるこ とができていない。	・総合的な学習の時間での体験学 習は非常に良い経験になるが、時 間確保が難しい。 ・進路実現についての意識を高 めていく必要がある。学活の時間に 副読本(中学生生活と進路)を使っ たり、生徒たちの自己肯定感が高 まるような言葉かけが必要である。 ・高校進学説明会は、進路への意 識が高まる。しかし、生徒たちが高 校合格までを目標にするのではな く、その先まで考えさせなければなら ない。	1・・・6名 2・・・4名 3・・・0名	・キャリア教育の【基礎的・汎用的能力一覧】 を活用し、子ども自身が自分を評価するルー ブリック評価で、自信を高めていくような取組 もよいと思いました。

教育活動	●心の教育	道徳教育や体験活動を充実し、豊かな心の育成ができたか。	・豊かな体験活動を通した道徳の授業の充実を行う。 ・道徳的心情を育む授業の工夫する。 ・あいさつのあふれる学校環境をつくる。 ・特別支援学校等との交流学習を実施する。	・地域人材を活用した道徳の授業を計画的に行う。 ・ふれあい道徳授業(授業参観)を実施する。 ・生徒会によるあいさつ運動の工夫改善を行う。 ・大和特別支援学校やろう学校、シオンの園との交流学習を行う。	道徳教育 生徒指導部	A	・ふれあい道徳授業の実践を行うことができた。 ・評価の在り方について研修を行うことができた。また、道徳教育研究大会での研修内容を職員に周知することができた。 ・人権集会では、内田百玲さんの体験談と演奏を通して、生徒自身の人権意識を高めることができた。 ・特別支援学校との交流学習を通して、生徒が共生の大切さや他者への思いやりを体験的に学ぶことができた。	・地域人材を活用した道徳の授業や、大和特別支援学校やろう学校、シオンの園との交流学習を行う。 ・ふれあい道徳授業(授業参観)を実施する。 ・生徒が物事を多面的・多角的に見たり、考えを広げ、深めたりすることができるように、職員の連携や教材の共有が必要と考える(TTによる授業や教材のストックなど)	1・・・9名 2・・・1名 3・・・0名	・体験を伴う道徳、生活に根差した道徳の取組は素晴らしいと思います。
		人権・同和教育の推進はできたか。	・「いじめ・命を考える日」の取り組みを毎月行い、内容を充実させる。 ・安心して生活できる学年・学級だと感じる生徒を95パーセント以上になるようにする。	・「いじめ・いのちを考える日」は、生徒に人権・同和教育に関する講話を行う。 ・グループエンカウターの実践を積極的にに行い、級友の良い所を見つけさせ、学級活動の充実を図る。	人権・同和教育	A	・毎月の生徒集会に具体的な例をあげながら「いじめ・いのち」に関する話ができた。 ・グループエンカウターの実践を授業時間のみならず、朝の会や帰りの会でも積極的な実践ができた。	・来年度は複数の教職員によるローテーションにより「いじめ・いのちを考える日」の講話を進めていきたい。 ・グループエンカウターで効果のある実践は今後も共有していきたい。	1・・・10名 2・・・0名 3・・・0名	・「いじめ」はいつでもどこでも誰にでも起こりうるものです。
	●いじめ問題への対応	生徒が安心して生活できる学年・学級経営ができたか。	- 毎月「いじめ・いのちを考える日」の取り組みを充実させる。 ・本校の学校いじめ対策基本方針を充実させ、対応の迅速化を行う。 ・支持的風土づくりを大切にし、生徒の居場所のある学校づくりをめざす。	・生活アンケートを毎月行い、いじめや悩み等、生徒の問題の早期発見に努める。 ・いじめに対する教員の対応マニュアルを作成することで、未然防止、早期発見、早期対応ができる体制を作る。 ・少人数の学校という利点を生かし、生徒一人一人の活躍の場を多く与え、承認する。	生徒指導部	A	・毎月のアンケート結果を回覧し、全職員で共有することができた。加えて、年に2回の教育相談週間を通して、面談を実施することができた。 ・不登校生徒へのアプローチを考えていきたい。	・人権に係るタイムリーな話題を生徒に提示していきたい。 ・引き続き、生活アンケートを行うとともに、定期的に教育相談を実施していきたい。	1・・・10名 2・・・0名 3・・・0名	・継続的に様々なアプローチが必要ですし、保護者や地域を巻き込んだの取組も必要だと思えます。 ・こまめな実態把握と情報共有はとてもいいと思いました。
	●健康・体づくり	健康教育や安全教育(危機管理)の推進はできたか。	・部活動への参加を奨励し、加入率100%を目指す。 ・体力テスト結果が全国平均以上になるように取り組む。 ・給食後の歯磨きの徹底と感染症予防として手洗いの実施率100%を目指す。 ・さまざまな安全教育(危機管理)を実施する。	・入学説明会等機会あるごとに、部活動の意義について生徒や保護者に説明し、加入を促す。 ・体育の授業の準備運動に4分間程のランニングや腕立て伏せや上体起こし等の補強運動を取り入れ、体力の向上を図る。 ・昼食後の歯みがきと手洗いを促す。 ・危機管理マニュアル、学校安全計画に基づく研修を実施する。	保健安全	A	・今年度の入学生については、部活動加入率100%を達成できた。 - 全校生徒での加入率は、90.3%であった。 ・体力テスト結果を見ると、8項目中、1年男3、女3、2年男5、女4、3年男7、女7が全国平均を上回った。学年が上がると大きな伸びが見られた。 ・生活アンケートの結果、86%の生徒が昼食後に歯みがきをできている。 ・危機管理マニュアル・学校安全計画に基づき、交通安全教室や避難訓練などを実施することができた。	・来年度も引き続き部活動加入への取り組みを進めていきたい。 ・体力テストの項目を見ると、柔軟性、全身持久力、スピード、巧緻性などに課題があるので、それらを高める運動を体育授業の準備運動・補強運動で取り入れていきたい。 ・昼食後の歯みがきができていない生徒がいるため、引き続き呼びかけやポスター等で促す。 ・地震・火災避難訓練では、消火の際に消火栓を用いる訓練を入れる。	1・・・8名 2・・・2名 3・・・0名	・体力づくりの視点も大切ですが、生涯スポーツの視点もあってもよいかもしれません。 ・「働き方改革」の流れで、今後、部活動はどうなるのか気になるところです。
	○特別支援教育の充実	特別支援教育の体制を確立することはできたか。	・支援が必要な生徒全員に、個別の教育支援計画を作成する。 ・支援が必要な生徒全員に個別の指導計画を作成する。 ・特別支援教育の研修会を年間3回実施する。 ・小・中合同の研修会を実施し、情報を共有する。	・校内支援会議を毎月行う。また、隔月には小中合同で行い情報の共有化を図る。 ・個別の教育支援計画の作成と記録を行い、共通理解を図る。 ・個別の指導計画を作成し、生徒のにニーズに応じたきめ細かい指導を行う。 ・外部講師による研修会を実施する。	特別支援教育	A	・支援が必要な生徒について、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成を行った。全職員が指導に関わっているので、共通理解を図り、指導・支援を行うことができた。 ・特別支援教育の研修会を年間3回実施できた。 ・校内支援会議や連絡会ににおいて情報の共有化を図ることができた。	・生徒の実態に応じて適切な指導を行うために、個別の指導計画の見直しを行い、活用する。 ・発達障害、「困り感」のある生徒への理解と発達段階に応じた適切な支援についての研修会を実施する。	1・・・10名 2・・・0名 3・・・0名	

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	妥当性	
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	人事評価制度のもと、効果的で効率的な働き方をすすめることができたか。	・新しい人事評価制度を職員に周知させ、効果的な活用を行う。 ・業務記録表をもとに、勤務時間の適正化を推進する。 ・職員のコンプライアンスを高め、服務規律を遵守させる。	・人事評価制度の具体的内容の周知を図る。 ・効率的に学校行事の精選や校務分掌の見直しを図る。 ・部活動に係る指導方針を改め、超過勤務を削減する。 ・服務規律の徹底遵守を啓発するため、各種研修会を行う。	総括	A	・勤務時間をPCで管理することにより、個人が客観的に勤務状況を把握することができた。 ・部活動指導のガイドラインにのっとり、遵守することができた。 ・職員の綱紀肅正について、学期ごとの連絡・研修会を行った。	・学校行事の精選を念頭に、合理化、効率化を図ることにより、働き方改革をすすめる。 ・部活動の休養日を把握し、過度の指導にならないよう指導・監督を継続する。 ・不祥事防止のための研修会を適宜行う。	1・・・9名 2・・・1名 3・・・0名	

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目